



底生生物

アサリ



海水をろ過し、水質浄化にも役立っている。成貝のろ過量は1個体で約10L/日とも言われる。

バカガイ



寿司種のおおやぎ。水揚げしたとき、口を半開きにして足をだらりと出すのでバカガイという名がついたという説もある。

シオフキ



よく水を吹き出すためシオフキという名がついたと言われている。

マテガイ



別名かみそりがい。殻長約12cm。この貝が棲む穴に塩を入れると飛び出してくる。

ホンビノスガイ



北米東海岸からやってきた外来種。近年、三番瀬で漁獲量が増えている。

タマシキゴカイ



(左下:成体, 右上:卵塊)
砂に含まれる有機物を食べ、消化できない砂を排出する。

アナジャコ



体長8~9cm。泥干潟にY字状の深い巣穴を掘る。

マメコブシガニ

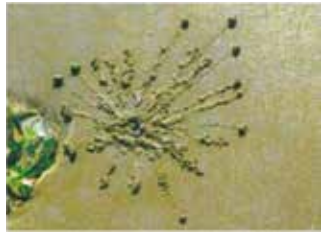


前後に歩くことができるカニ。2cmほどの固くて丸い甲羅を持つ。

コメツキガニ



約1cmの小さなカニ。深さ10cm位の穴を掘って生活する。砂に含まれる有機物を食べ、残った砂や巣穴を掘った砂で砂団子を作る。



(巣穴の周りの砂団子)

海草

アマモ



現在の三番瀬では少なくなりましたが、魚介類の産卵場所や幼魚の生育場所として重要。

海藻

オゴノリ



刺身の「つま」に使われる海藻として有名。食用にする時は熱湯で処理する。

魚類

マハゼ



主にゴカイ等の底生生物を食べる。

イシガレイ



三番瀬の浅場に広く分布しており、底生生物を食べる。成長すると沖合へ移動する。

ボラ



藻類や甲殻類を食べる。海面上にジャンプする姿がよく見られる。

セイゴ(スズキの幼魚)



三番瀬一帯に広く分布しているが、成長すると沖合を回遊する。主に魚類や甲殻類を食べる。